



□欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	伊豆高原(ゆうゆうの里)7A7センター新棟新築・診療所建替え工事	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	凡例
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2	/5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.6	/5		ふつつ
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.9	/5		ふつつ
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.9	/5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価	凡例	よい
				4 点以上
				ふつつ 3 点以上
				がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点	3.2	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)				
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①断熱性能の高い壁面 ③人のいる部屋にはほぼ全てにカーテンを導入 ④ステンレス製ダクトの採用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤敷地内既存草木を必要最低限のみ伐採しほぼ残している ⑥既存緑化量が多く、またピロティを広くすることで気温上昇を抑制 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑫グリーン購入法適合資材を多く採用 ⑬県内産木材を採用 ⑬ホルムアルデヒドはもちろんのこと、アセトアルデヒドおよびステレン、トルエン・キシレン・エチルベンゼンなどの発散も少ない建材・資材を採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭省エネルギー対策 ⑮敷地内全体的に高層は立てず、隣棟間隔を広くすることで風環境に配慮 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)			
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰建築基準の1.5倍の耐震性 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)			
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱建築物移動等円滑化基準チェックリストの過半を満たしている ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑国立公園内ということで、地域の景観条例に加え、自然公園法第三種特別地域としての許可証も得ている 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳ ㉑	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)				
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ㉒敷地内既存草木を必要最低限のみ伐採しほぼ残している ㉒既存緑化量が多く、またピロティを広くすることで気温上昇を抑制 ■敷地外環境対策 (㉕温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ㉕敷地内全体的に高層は立てず、隣棟間隔を広くすることで風環境に配慮 	Q-3 1 ⑳ 2 ㉑ 3 3.2 ㉒ LR-3 2 2.2 ㉓	㉒ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ・景観への配慮 ㉒ 敷地内温熱環境の向上 ㉓ 温熱環境悪化の改善		

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	伊豆高原(ゆうゆうの里)センター新	階数	地上3F
建設地	伊東市八幡野字萩ヶ久保上947-1	構造	S造
用途地域	自然公園法の規定により富士箱根	平均居住人員	60人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年5月29日
敷地面積	2,068㎡	作成者	鈴与建設株式会社 両宮 浩司
建築面積	1,008㎡	確認日	
延床面積	2,447㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

①参照値 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 83% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外のオンサイト手法 83% (92 kg-CO₂/年・m²)

④上記+オフサイト手法 83% (138 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	国立公園内の養護施設とし、厳しい条例等を満たし、さらに住環境に配慮した建物となっています	その他 施設内にある草花が楽しめる施設内遊歩道が設けられているなど自然とのふれあいを存分に楽しめるような住環境となっています
Q1 室内環境	住環境は空気質、温熱、光・視環境それぞれに配慮し、共用部でも居心地の良い空間になるよう配慮しています	Q3 室外環境(敷地内) 公園内ということで緑が多く、また、施設を開放することでコミュニティを広げやすく配慮しています
LR1 エネルギー	省エネ性能の高い建材、設備を採用し、エコを意識した設計となっています	LR3 敷地外環境 地域条例等をしっかり満たしています
Q2 サービス性能	清掃のしやすさを考慮し、また耐用年数の長いものを採用し更新間隔を伸ばすことで、住居者にストレスを与えないよう配慮しています	
LR2 資源・マテリアル	グリーン購入法対象建材をなるべく多く使用し、住居者にも地球資源にも優しい建物となっています	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい